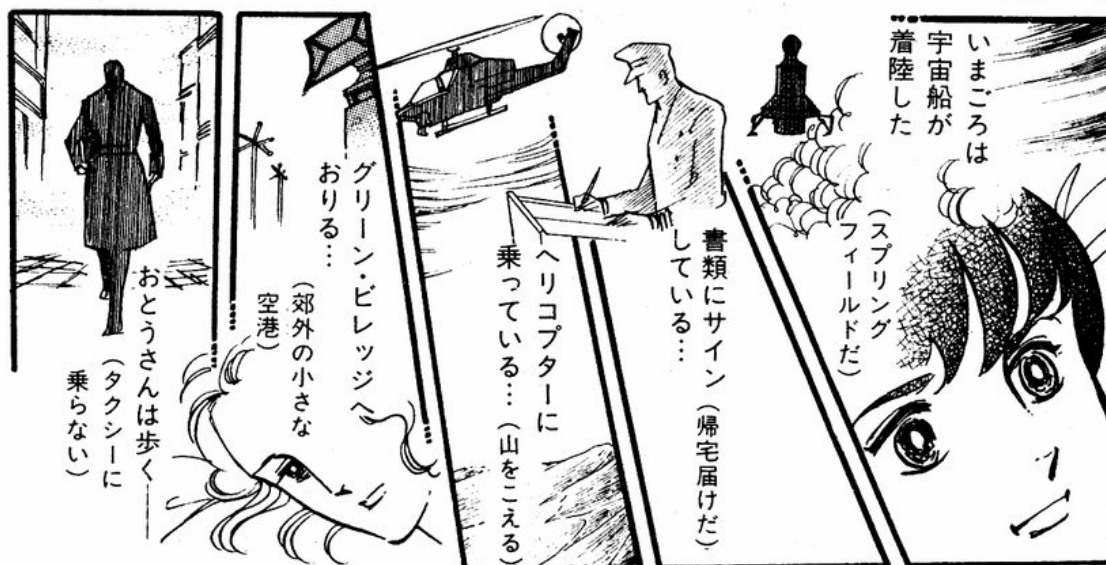
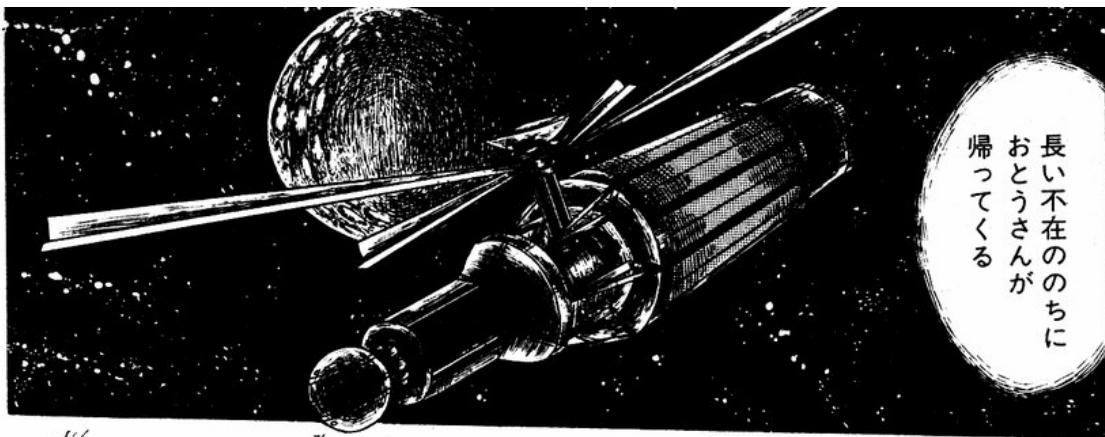
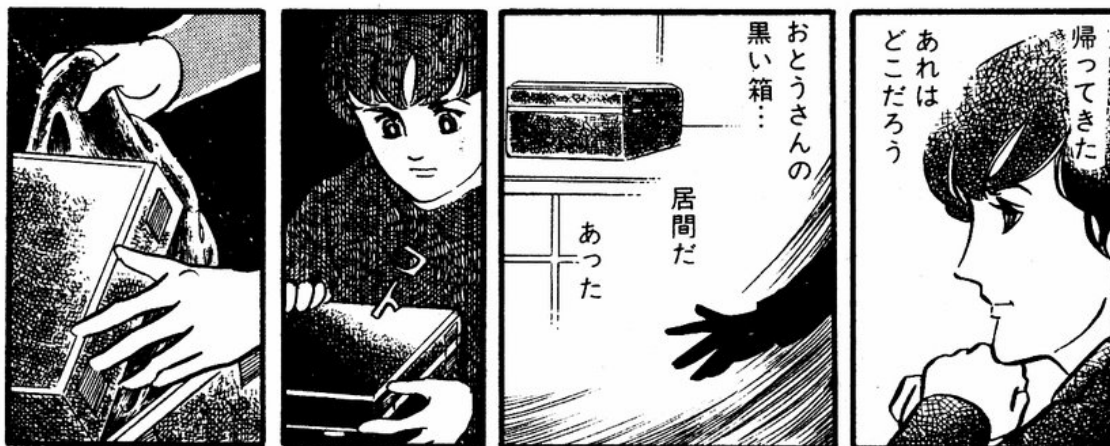
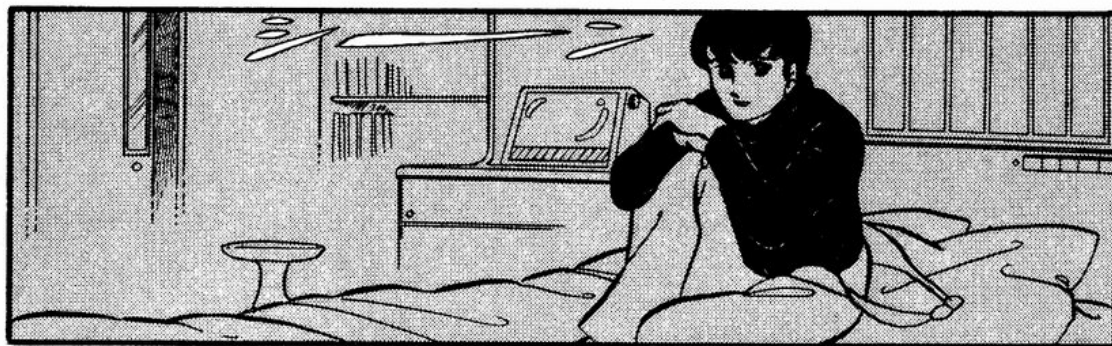
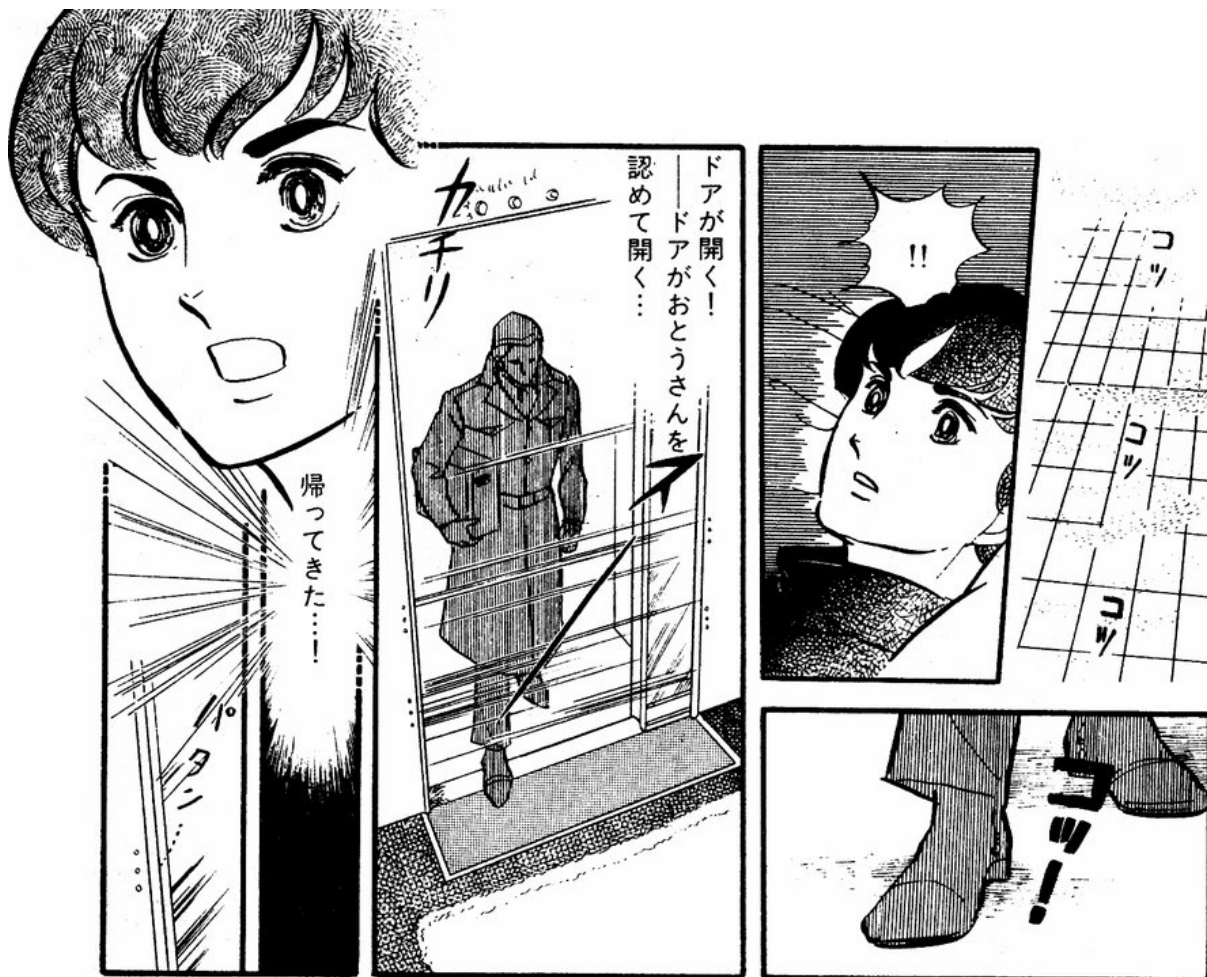
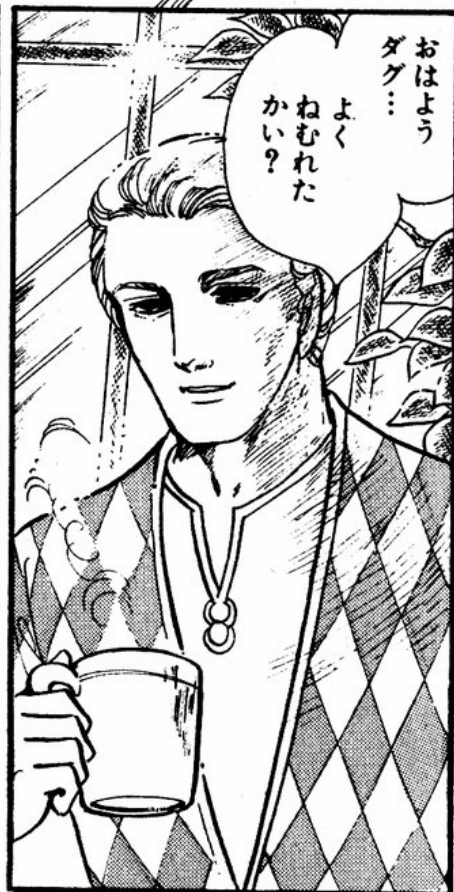
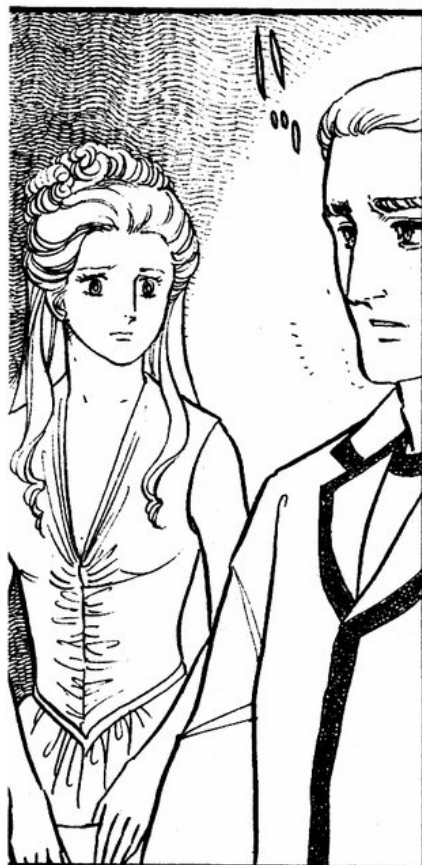
宇宙船乗組員

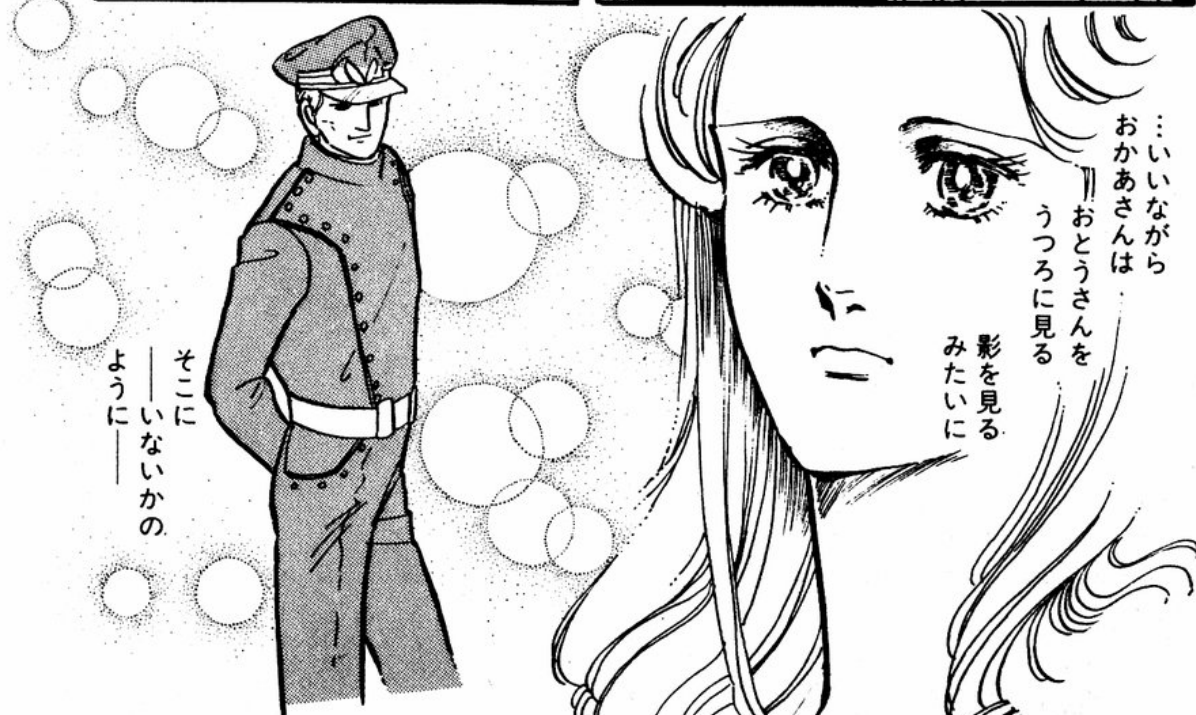
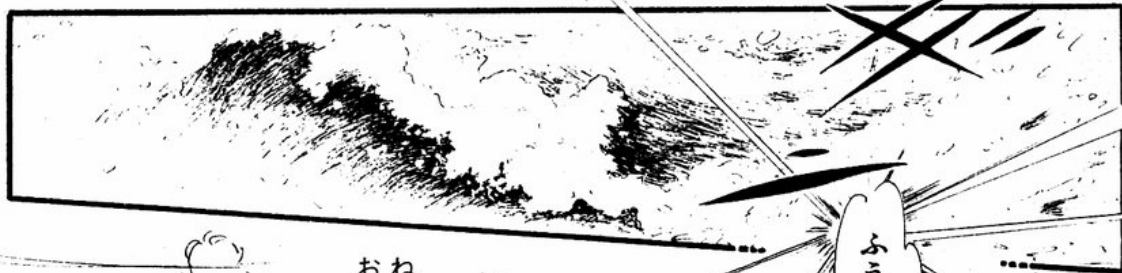
ねえ ダグ
なんとか
力をかしてね…
——こんどこそ
おとうさんが
帰ってきたら
もうにどと
出発しないよう
に!
……うん
おかあさん
…でも
うまく
いくかな
……
むずか
しいよ
おかあさんも
ねむれない
ぼくは今夜は
ねむれない

長い不在ののちに
おとうさんが
帰ってくる
そら　いま！
おとうさんの宇宙船が
わが家の真上をとおる！
（気がする）
ダグラス！
元気か？
リリー！
いま帰るよ！
おとうさんだ！
おとうさんが
帰ってくる！
いまごろは
宇宙船が
着陸した
（スプリング
フィールドだ）
書類にサイン
している…
（帰宅届けだ）
ヘリコプターに
乗っている…
（山をこえる）
グリーン・ビレッジへ
おりる…
（郊外の小さな
空港）
おとうさんは歩く
（タクシーに
乗らない）

コッ
コッ
コッ
!!
ドアが開く！
──ドアがおとうさんを
認めて開く…
カチリ
帰ってきた…！
パタン…
コッ！
帰ってきた
あれは
どこだろう
おとうさんの
黒い箱…
居間だ
あった

おとうさんの
制服…
宇宙船
乗組員
の服だ……
この服を
工作でつくった
遠心分離機に
いれて回すと
こまかい粉が
レトルトに
落ちこむ
こいつだ
そら
ごらん…
遠い星の粉
火星の鉄のにおい
金星の蔦のにおい
水星の炎
乳色の月…
——おっと制服は
もどしておか
なけりゃ
洗濯屋が
くるだろうから
この粉を
だいて
ねむろう…

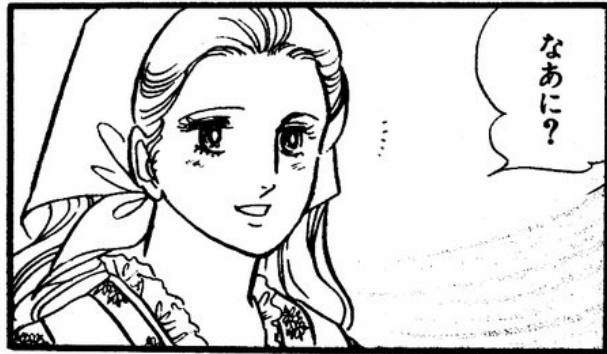
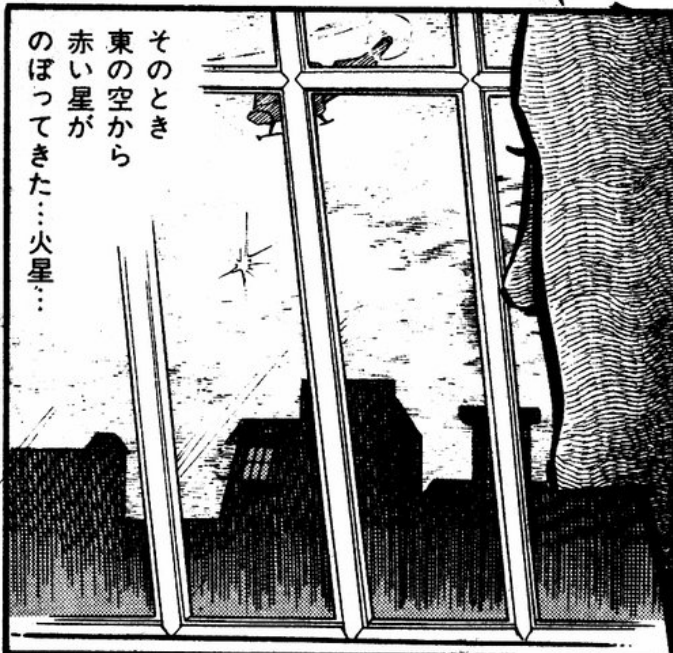
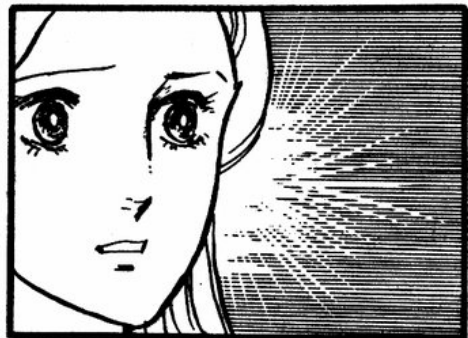
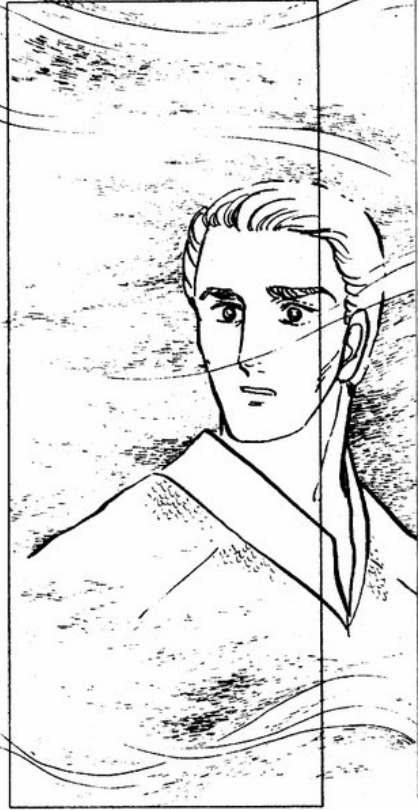
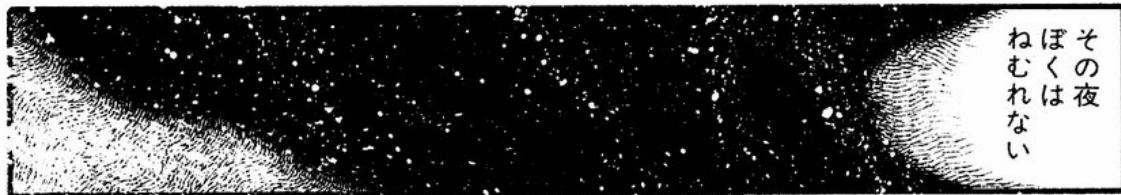
おはよう ダグ…
よく ねむれた かい？
うん とっても
おとうさんは そこにいる その様子は
3か月も るすにしてたとは 思えないほどだ
制服はもう 洗濯屋から もどっている きれいに なって
やっぱり 夜のうちに ホコリを取って おいて よかった…
…ねえ あなた 芝を刈って くださる？
ガタ
いいとも！ ほかには？
ええ 台所のプラグが こわれてるの 修理して くださいな
そうね… …それから

芝刈り
家具の修理
みんな
とっておくのだ
おとうさんが
帰って
きたときの
ために
その日は
おとうさんは
空なんか
見ない
おかあさんは
少女のよう
でも2日目には
おとうさんは
星を見あげる
3日目には
おかあさんは
泣く
4日目の朝
おとうさんは
出発し…
おかあさんは
おきてこない
おきてきても
なにも食べない
これの
くりかえしだ…
でもきょうはまだ
1日目だ
ねえ！
町へでてテレビの
移動展示会見ようよ！
ようし！
おとうさんと
いっしょだ
おとうさんと
いっしょに
笑ったり
うなづいたり
おかあさんも
ぼくは制服の
ほこりを取った
けど
おかあさんは
なにかおみやげを
もらったの…かな…？

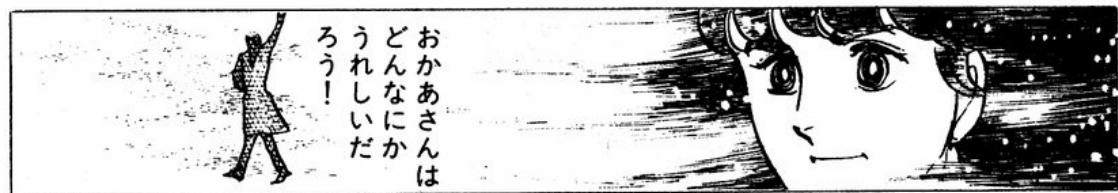
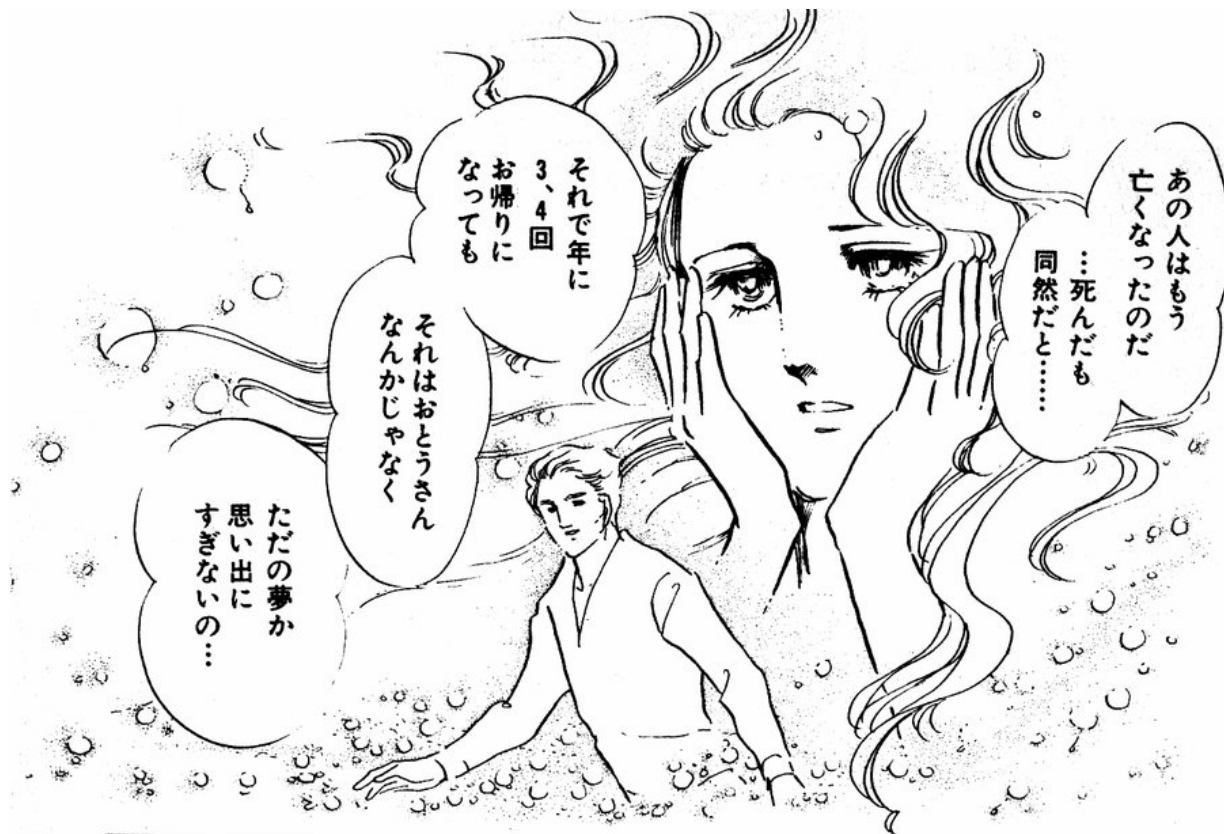
…そうだ
まえに…
庭におみやげの
火星の花を
うえたっけ
でも
おとうさんが
出発して
一か月も
すぎて
その花が
咲きだし
たとき
おかあさんは
根こそぎ
刈りとって
しまった
あの――どんな感じ?
おとうさん
宇宙に飛びだして
ゆくのは
うん――一生のうちで…
あれほどすばらしい
ものは……

いや！ たいして…
つまらんよ！
きまりきった
もんだしね
ダグ
もう…
帰りましょう
…おかあさんに
せつないおもいを
させた
ごめんなさい
でもおとうさんは
いつもまた
いってしまうね
習慣さ
ごめん
なさい
でもその夜
またやって
しまった
ねえ
おとうさん
お願いが
あるんだけど
なんだいダグ
──制服を着て
みせて
いちども
制服姿
見たこと
ないんだ
もの
ダグ…
そいつは
ねえ
ねえ
ねえお願い
じゃ……あ
これきりだよ
うん！

ゴメンネ
………
ちっとも
協力して
くれないのね
着て
きたよ…
どう
だい?
ぐるっと
まわって
みせて……
…いいながら
おかあさんは
おとうさんを
うつろに見る
影を見る
みたいに
そこに
──いないかの
ように──

ふう――――!
翌日
翌々日
ぼくらは
海に出かける
おとうさんと
いい日だ
ねえ
おかあさんも
ああ
太陽
土
潮風――
…うん
いいな…
船に乗ってると
なつかしくなるで
しょう
おとうさん
草や大地やぼくや
おかあさんの手料理
おまえ長く
泳げるように
なったなダグ
そうだよ! それに
高とびだってクラス一だよ!
おとうさんは
遠い宇宙から
おかあさんに
電話など
かけない――
帰りたくなり
つらくなる
からだと
いう

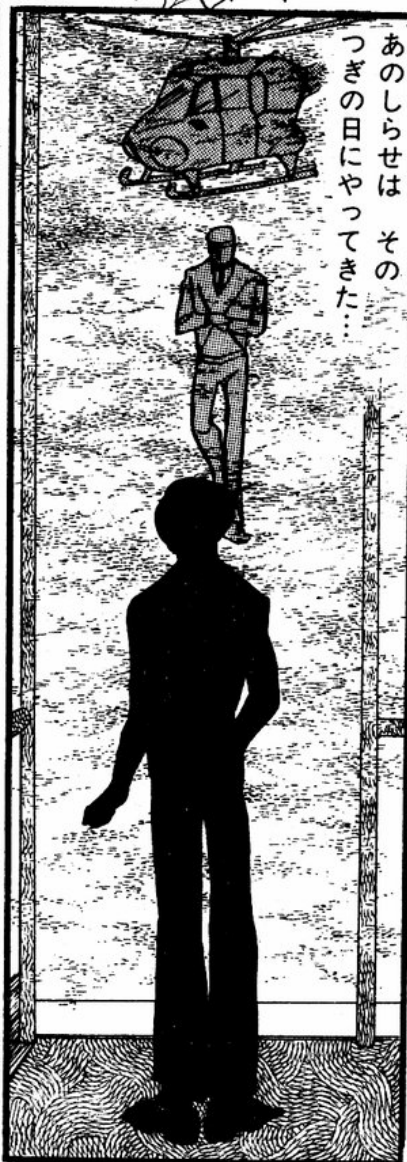
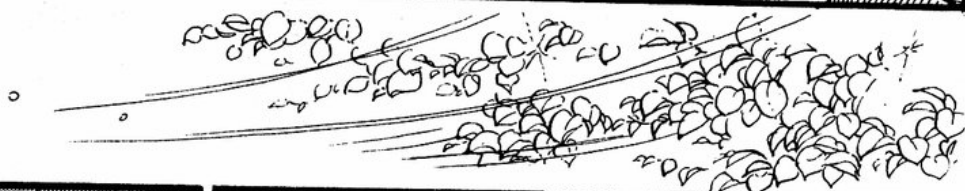
なァダグラス…
約束しておくれ
おとうさんと
…うん…
宇宙船乗組員に
ならないと
いうことだ…
…おとうさん！
ぼく
それがどんな
ものか
おまえにはまだ
わからない
宇宙へいくたびに
地球に
帰りたくなる…
地球へ帰ると
宇宙へ
いきたくなる
おまえを
そんな生活の
とりこに
させたく
ないんだ
……ぼくは
ずっと
宇宙船乗組員に
なりたいと思って
いたんだ…おとうさん
おとうさんは
宇宙へいくたびに
こんどこそ
帰ったら
家に落ちつこうと
思うんだ
とどまろうと
なんとか……
努力している
んだ…

…でも今夜
おとうさんはポーチから
オリオン座を見るんだ…
そして
出発し…
そして
おるすのあいだは
おかあさんとぼくは
おとうさんの話を
しない…
おとうさんのように
ならないって
約束しなさい
…………
わかった
………
おとうさんが
いなくなると
星のあかりが
強すぎて
――おかあさんは
ねむれない
ピュウ!
これは
どうした
ごちそうだい!
きょうはうちの
クリスマスよ
そのころ家には
いらっしゃら
ないんでしょ
ソール・ムニエル
フリカッセ
シャンピニオンの
白ワイン煮
ホワイト
シチュー!
ヨ――!
七面鳥
じゃないか!

……フウン
…リリー…
食卓の落としあなだ！
ねえ…リリーや…
おとうさんはつかまった！
なあに？
もうこれでおとうさんはおりからでられない！
さあ――いまいうぞ！
にどと宇宙にでかけないって家にずっといるよって――！
…あの
そのとき東の空から赤い星がのぼってきた…火星…

……………ああ
……………さあ
食べようか
クルッ
…パンを
とってこなくちゃ
……
おかあ…さん
その夜
ぼくは
ねむれない
おとうさんも
ねむれない
……ねえ
おとうさん
………

宇宙では
人が死ぬのに
どれぐらい
ちがう死に方が
あるの……?
さあ…
数えきれない
ほどだよ
隕石がぶつかる
空気が船から
もれる
彗星に道づれに
される
震盪症
狭窄症
破裂症
遠心力
加速度の
過不足
太陽
月
アステロイズ
プラネトイズ
放射能…
埋葬するの?
死体は
見つからない
ことが多い
10億マイルも
遠くへ飛んでいって
しまう
通称
動く墓場だ
永遠に
宇宙を
さまよう
んだ
宇宙では
………
即座だ
ぐずぐずしない
あっというまに
死んでいる
即死だ
それっきり
だ…

チチュ
チチチュ
おとうさん！ もうでかけるの…
ダグか…
腹を決めたよ……
こんど帰ってきたら…
それきりずっと家にいるよ！
ほんとう!? おとうさん！
ああ！ 3か月したら帰ってくる
おかあさんにそういっといてくれ
おかあさんはどんなにかうれしいだろう！
もう うつろには おとうさんを 見ないだろう――
…ねえ…おかあさんは ときどき おとうさんを見ても 見えないいみたいな ふうだね…？
…10年前にね
おとうさんが…
宇宙へいって しまったとき 思ったのよ…

あの人はもう
亡くなったのだ
…死んだも
同然だと……
それで年に
3、4回
お帰りに
なっても
それはおとうさん
なんかじゃなく
ただの夢か
思い出に
すぎないの…
夢や
思い出なら
途中で消えても
たいして
つらくは
ないしね
……
…でも
そうでない
ときは…
そうでないときは…
もうやりきれ
ないのよ——
生きて
いらっしゃるかの
ように
パイを焼いて
さしあげると
それが
また
つらい
のよ
いっそもう
おとうさんは
10年前に
亡くなってて
にどと会えないのだと
思ったほうが
ましなの……
こんど帰ってきたら
ずっと家にいるって
いってたよ…!
…いいえ…

…10年前に
わたしこう
思ったの…
かりに
おとうさんが
金星で
亡くなったら
どうだろう…?
もうにどと
金星など
見るに
たえなかろう……
かりに
火星で
お亡くなりに
なったら…
夕方あの星を
東の空に見たら…
もうすぐに
家にはいって
戸にかぎを
かけてしまうわ
木星か
土星か
海王星で
おなくなりに
なったら?
そういった星が
でている晩には
もう
星なんか
まっぴらって
気になるわ
………
…うん…
…でも
おかあさん

おとうさんはこんどはきっと生きて帰ってくるよ
夢じゃなくさ
あのしらせは　そのつぎの日にやってきた…
おかあさん……！
…なにもいわないで！

おかあさんは
泣かなかった…
おとうさんの命を
うばったのは
それは
火星でも
金星でも
土星でも
なかった
星を見て　だから
おとうさんのことを
思い出す必要はない
おとうさんの宇宙船は
太陽の中に落ちたのだ……
長いあいだ
おかあさんは
昼間ずっと
ねていて
外に
でなかった
ぼくらは
真夜中におきて
朝食を食べ
午前3時に
昼食を食べ
ディナーは
午前
6時に
とった
ふたりで
オールナイトを
見にでかけ
あけ方
カーテンを
ぴったりと引いて
ねた

長いあいだ
ぼくらが
外へ散歩に
でかけるのは

ただ　雨降りの
太陽のでていない日だけだった